

第4回 日の里学園 学園運営協議会・議事録・11.9

令和4年11月9日(水) 日の東小学校 図書室 15:00~16:40(まつり実行委:上野崇之さん、推進員:島本節子さん 参加
開会の挨拶・黒川会長より ・今回は、子どもの様子確かめる貴重な機会になる。授業参観シートを基に
温かい目で学習する姿を見てほしい。また後半の熟議では、これまでの各部
会の取組をしっかりと共有したい。

1 日程説明・前回の確認

日程説明【事務局：北岡 Co】前回の議事録の確認【事務局：大庭主幹】

2 授業訪問・感想の交流

(川野委員)：どの学級も熱心で、全体交流の場面でも子ども達の発言があり、そこから授業が組み立てられていた。

6年生のグループでの活動も熱心であった。パーテーションが白く曇っていて、後ろの子は見にくいと感じた。

(青谷委員)：6年生のタブレットを活用した授業は工夫されていた。3つの視点のうち、クリエイトとチャレンジの
どちらにも当てはまる姿であった。

(美和委員)：4年生の算数(概数)の学習で、難しくついていけない子や、できていない子への支援はどのように
行っているか。

(高木委員)：今日の授業は、あえて子どもの反応を見て、分かりやすいように説明の例示を多くしていた。一人一人
の学習の状況は終末段階の練習問題で確かめて、十分に理解できていない子には再度教えていくようにしている。

(賀来委員)：先生の話をしっかり聞き、問いかけにきちんと答え、習ったことをノートにしっかりとまとめている姿か
ら、日々の指導の積み重ねが表れていると感じた。

(黒川委員)：熱心に勉強している。算数や道徳など、しっかり先生の話の話を聞いている。グループ活動では、自分で考
えた意見を出し合って交流していた。学園の3つの視点を先生方が十分理解されて、授業を行っている。

(森委員)：限られた条件の中で、精一杯先生と子どもが頑張っている。配慮が必要な子が多いが、先生たちの頑張り
を感じた。この環境の中で、もっと教育を充実させるためにはどうすればよいか、協議会で話し合うことも考えられ
る。高学年は教科担任制で4人で4クラスを教え、色々な教師が関わり、子どもも安心して過ごしていると感じた。

(藤原委員)：パソコンを使っていない学習場面で、前のモニターの待ち受けの画像が変わっていくのが気になるので、
気が散らないように、使わないときは、見えないようにする工夫で、学習環境がよくなると思う。

3 議事

①熟議「これまでの各部の取組と今後に向けて」

②各部からの報告

(教育支援部：青谷委員)：学園サポーターが気軽な制度になればよい。どんどん依頼を出してほしい。緊急は電話で
入れていただくと、迅速に連絡を回せる。子ども大学でサポーターへ呼びかけ、高齢者の方にお手伝いを頂くが、とて
も喜んでいる。学校への支援が、高齢者の生きがい作りになっている。

(協働部：大庭主幹)：日の里まつりや椅子づくりを題材に動機付けから地域が関わり、最終的には6年生や8年生が
参画するところまでできた。計画から実践まで、実行委員会など地域の大人と子ども達との協働がすばらしかった。
子ども達の地域貢献の思いは、確実にレベルアップしている。この姿を後輩が見て、さらに未来につながっていく。

(地域貢献部：藤島教頭)：地域の行事に子どもが関わることを支援することが地域貢献部だが、子どもが参画するよ
うになってきたことが成果である。「ご近所みちあそび」においても、学園の教育目標である「自分で考え、自分で
行動する子どもの育成」ができています。取組が日の里地区の地域活性化し、学校と地域がWin・Winの関係になってい
る。次年度からは駅前の大通りを舞台に子どもが主体的に参画し、プロジェクト型の学習をするという構想もある。

③委員からの学園運営に関する意見

(藤原委員)：SSWiは各校に配置されているのか。人数が足りていない。(美和委員)：SSWiは何をしているのか。

(賀来委員)：市内3名で、2学園ずつ担当している。子どもが抱える課題の解決について、学習面は教員、精神的な
ケアはカウンセラー、家庭環境やその子の発達の特性の課題は学校だけでは解決できないので、SSWiが外部機関につ
ないだり、家庭を支援する福祉につないだりする役割である。

(森委員)：校長部会で議論をして、次回の学園運営協議会で素案を出してもらおう。

4 閉会の挨拶(森副会長)日の里の学園運営協議会のよさは、一人ひとりがコーディネーターとしての機能をもっ ていて、つながりの情報がたくさん出てきているところである。部会での協議内容も、すべて教育活動として考えてい て、イベント的な打ち上げ花火でなく、どう子どもの成長につなげるか、子どもが主役になって、大人がどのように 黒子になるかを考えている。また、高齢者も授業に参加しており、そのことが生涯学習の場の提供になっている。高 齢者が生きがいを感じて学校と関わっている。子どもの学びとともに、地域の人の元気を提供している。